

# 逗子の景観まちづくり

## 瓦版 第四十四号

平成二十七年九月一日

編集 逗子市環境都市部まちづくり課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百字以内の景観に

関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.kanagawa.jp

### 「黒門の事」

私の父は昭和12年に旧成瀬別荘（黒門）を自分の別荘として購入しました。僕は大战勃発の翌年に慶應義塾普通部に入學し東京に出て来ましたが、逗子から通學し出したのは終戦の中3からでした。黒門とのお付き合いも随分になります。時が過ぎ社会人を卒業し両親も居なくなり、自分が黒門の面倒を見る事



「黒門」 絵 高田 耕藝

になつてから黒門のルーツをぼつぼつ探し始めました。

及川洋一さん（注・故人、元文化の会専務理事）は良き話し相手であり僕の師匠でした。調べてゆくと黒門別荘の先代成瀬成恭さんは福沢諭吉先生ご存命時代の塾員で、福沢先生の奨めでアメリカに留學しコーネル大学で法学修士を取得された稀有の学徒だったとか。帰国後華族銀行とも言われた全国立銀行総資産の半分を所有する第十五銀行の支配人・頭取を30年近く勤められた事、明治政府の迎賓館「鹿鳴館」がお取り潰しの折にこの銀行に払い下げられた事を知るに及び、ここ黒門が鹿鳴館の一部であったとの言い伝えを信じ始めています。

一方、成恭の長男成瀬正一はフランス文学者で、芥川龍之介、久米正雄、菊池寛、松岡譲等と一高・帝大の同級生でした。同人誌第四次新思潮の創刊に際しアジトとして繁く成瀬別荘が使われたとの史実もあり、大正ロマンの香りを感じます。そして彼等の師匠は紛れもなく夏目漱石であり漱石の長女筆子が松岡譲の妻である事からもわかる通り、漱石を含む文壇の巨匠達が此処成瀬別荘から今と変わらぬ伊豆の



「朝日の黒門」 絵 矢島 房夫

山々や富士を眺めていた事を思うと、当時にタイムスリップするようです。

僕の父は成恭さんの30年以上後輩ですが、大正9年慶應大学を早退して渡米しペンシルベニア大学で経営学修士を取得しており、成恭さんとの隠れた縁も感じます。歴史と文化を正しく伝承することの大切さを思う此の頃です。

伊藤 淑郎

# 逗子の景観を考える vol.13

逗子市景観資産に  
認定されています

## =クロマツのある風景=



本号の瓦版のテーマ、「黒門」にちなんで、逗子の「クロマツ」についてご紹介します。

海岸へ向かって歩いて行くと、通り沿いの住宅地に植えられている背の高いクロマツが目に入り、ここが海の入り口だということを象徴しているように感じます。



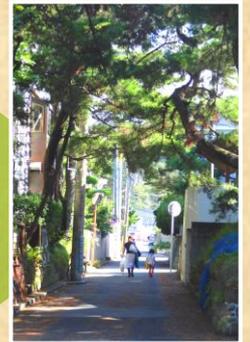
海のある逗子市では、塩に強く、また、風格をもたらすクロマツが固有の景観をつくりだしています。海岸付近はかつて、政治家、軍人、外国人などの保養別荘地帯であり、特に近代和風建築物とクロマツの組み合わせはその頃の名残を感じます。



黒門とクロマツの風格ある組み合わせ

クロマツは日陰や涼風をもたらし、潮風から家を護ってくれます。しかし、クロマツの管理は難しく、所有者等の特別な思い入れや努力によってこの景観は保たれています。逗子の顔ともいえるクロマツのある風景は、今となっては貴重で守ってゆきたい景観です。

暑い夏の日、クロマツトンネルの木陰で親子もほっと一息。



### 私の逗子の歩き方 ～夜間照明～

夜間の照明は、人がほっとするような光を灯したり、お店の魅力を引き立てたてる力を持っています。

昼間とはまた違う夜の姿を覗いてみましょう。

海に向かう通りを照らす、心温まるオレンジ色の光。



池田通りの街路灯と足元を照らすデザイン照明。

できるだけ柔らかく、小さく、低く、お店が引き立つように。



瓦版の編集担当は 逗子市環境都市部まちづくり課

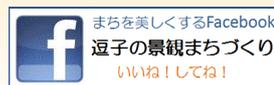
電話：046-873-1111 FAX：046-873-4520

Mail：[machi@city.zushi.kanagawa.jp](mailto:machi@city.zushi.kanagawa.jp)

逗子の景観まちづくり

検索

クリック！



瓦版に掲載する  
逗子の景観コラム、  
イラスト募集中！！



☆瓦版のバックナンバーは逗子市庁舎一階、まちづくり課窓口、市民交流センターに配架しています。逗子市HP、逗子の景観まちづくりフェイスブックにもアップしていますのでご覧ください。